▣死の怪馬車

芦屋現代映畫

原作者　山口狂介氏
脚色並監督者　志波西果氏
撮影者　大森勝氏

――主要役割――

帆船の船長　雷三　高堂國典氏
馬車屋の老人　源七　横山隆吉氏
其子　庄一　里見明氏
同妹　芦屋桃子孃
藝者　芳奴　柳まさ子孃
若旦那　櫻井浩氏
村の狸　小島武夫氏

〔解説〕「鮫龍横ろ」につゞく志波西果氏の監督作品である。

略筋――口無峠の馬車屋源七老人は、十七年前に自分の妻を奪つた雷三に出合つたけれ共可愛い我子の爲に總てを耐えてゐた。間もなく老人は何者にか殺害された。其後峠の馬車は悴庄一に依つて動かされた。港町の藝者芳奴は庄一の一本氣に少からず思を寄せた。芳奴は雷三が昔捨てた娘で、親娘の間は親しいものではなかつた。その後雷三にも自決の時が來て口無峠の人殺しのナイフを娘に渡した。そして娘芳奴も父の後を追ふたのであつた。

「死の怪馬車」帝キネアシヤ志波氏作品